

古き良き「セピア色の街並み」を映像で紹介

8ミリフィルムで撮影したかのような淡い色合いの映像とおしゃれな音楽。多彩なカメラワークを駆使して市内の街並みや神社、店舗などを約1〜3分の短い動画で紹介しています。制作したのは、rumpusの皆さんです。

——会を設立したきっかけは？

映像制作が仕事の戎<sup>えびす</sup>正人代表(43)は以前から「三原には魅力的な場所がいっぱいあるのに、それを紹介するコンテンツが少ない。特に動画を使ってPRしている人が少ないのでは」と感じていました。そこで、「自分



▲動画編集をする戎さん(向こう側)とメンバーの宮岡さん

ノスタルジックな雰囲気がコンセプト。戎代表は「良い意味で『開発され過ぎていない』のが三原の良さ」と感じていたので、わざと少し色あせたように見える映像にすることで、どこか懐かしい雰囲気を醸し出し、「古き良き街並みが残る三原」を表現したのだそうです。これまでに作った動画は8本。糸碓神社や道の駅「みはら神明の里」など、一つのスポットに焦点を当てた1分ほどの作品7本と、海外から来た旅行者が、JR三原駅前や御調八幡宮を散策したり、地元の食を楽しむんだりする様子を描いた、ス

の映像制作のノウハウを生かして、三原の良さをアピールできないか」と考え、三原のことをよく知る会社員や飲食店主らに声を掛け、昨年10月に会を結成。30〜40歳代の男女5人で、動画の撮影・編集などを行なっています。

——一番表現したいことは？

「今後の活動は？」  
いろいろな行事やイベントなどのPR動画を制作していく予定で、「単にSNSに掲載するだけでなく、広告を活用するなど発信方法を工夫し、多くの人に見てもらえるようにしたい」と意欲的です。動画をもっと身近に、三原の魅力をより多くの人に届けようと頑張っています。

▲制作した動画はインスタグラムで公開中です。

トリー仕立ての動画1本で、フェイスブックやインスタグラムで発信しています。

——反響は？

動画を見た人からは「場所は知っていたけど、こんな景色があるのは知らなかった。今度行ってみたい」という感想や、「次回は自分も出演させてほしい」という声もあつたそうです。

令和3(2021)年9月号  
第198号 毎月1日発行  
編集・発行／三原市広報戦略課

〒723-8600 広島県三原市港町三丁目5番1号  
代表(☎0848-642111) ☎0848-647101  
E-mail: info@city.mihara.hiroshima.jp

再生紙と大豆インクを使用しています。  
点字版や録音CDも発行しています。  
問い合わせは広報戦略課(☎0848-676007)へ。

<b>三原市の人口</b> (7月31日現在)	
※( )内は前年同月との比較。	
世帯数	43,402 世帯 (-357)
人口	90,863 人 (-1,577)
男	43,643 人 (-804)
女	47,220 人 (-773)
※うち外国人住民は 2,073 人	
人口移動の詳細については 広島県 人口移動 月報 <a href="#">検索</a>	

<b>税などの納期 (普通徴収)</b>	
○国民健康保険税(第3期)	
○介護保険料(第3期)	
○後期高齢者医療保険料(第3期)	
納期限	30日(木)まで
夜間収納・証明書交付業務の窓口(19時まで)	23日を除く毎週木曜日
<b>航空機の騒音測定結果(7月分)(Lden)</b>	
▶正広局(本郷町善入寺正広)	=43.1
▶本郷局(本郷町船木川西上)	=49.4

**あ・と・が・き**  
今号で取材したのは24時間365日、いざというときに頼りになる存在の救急救命士。使命感を持って仕事をされている姿に胸が熱くなりました。一方で「救急車で行ったら早く処置してもらえそう」などの安易な理由で救急車を呼んでしまう人がいるという現状に衝撃も受けました。救急車は限られた公共资源です。間違った利用が増えると「救える命」が救えない可能性があります。一人一人の行動で大切な命を救えるかもしれません。9月は夏と秋の境目ともいわれ、再スタートには絶好の季節。この秋、広報みはらはより魅力的なお役に立てる新たな紙面づくりに取り組みます(Y)

**三原市公式LINEで防災情報を**

※LINEアプリで「三原市」の友だち登録と情報登録(受信設定)が必要です。

総合メニュー 防災メニュー 三原の魅力

緊急情報 (三原市ホームページ)

避難所

危険区域を確認できます

市が発表している緊急情報が確認できます

避難所の開設状況などが確認できます

公式LINEの友だち登録

問 広報戦略課 (☎0848-67-6007)